

教授会の議論から判読すべきポイント:

- ① カリキュラム委員会は、学部執行部の意向に添わないとみなされる教員への圧力をかける手段となっている。吉井に対して、コース別カリキュラム委員会など、議論することなく、一方的に必須科目でさえ、学生への配慮もなく、1コマ減らしを強行している。
- ② 13分57秒から14分21秒の北村発言から、カリキュラム委員会の総意とは、執行部が選んだ数名のカリキュラム委員の総意のことであり、カリキュラム委員会という組織は学部執行部の独裁を強行する手段になっていることが理解される。本田教務委員長発言(6分17秒~6分41秒)、伊藤教授発言(10分22秒~11分3秒)から、学部教員の総意を汲む努力がなされていないことが理解される。
- ③ 13分57秒から14分21秒の北村発言で登場する「藤澤さんのご担当科目」のところは、背景を知る必要がある。吉井を人権委員会に名誉棄損で訴えた樋口カリキュラム委員長の訴えを、名誉棄損に当たらないと退けた藤澤人権委員長と事務職員OH氏に対し、北村實理事と高橋理事の面接のもと、OH氏は退職させられ、藤澤氏は担当科目に圧力を加えられ、人間科学部の教職担当教授の支援のもと、教職科目をもつことにより、教員の身分保障の4コマをクリアできたという背景がある。このように、経営学部のカリキュラム委員会は、学部執行部の意向に添わないとみなす教員への圧力をかける、パワーハラスメントを遂行する手段となっている。したがって、吉井の特任拒否も同様の流れにある(渡辺執行部体制は除く)。

15分6秒の時系列		二宮正司学部長・理事、樋口克次副学部長兼カリキュラム委員長、北村實副学長・理事 教務委員長は経営学部の本田教授	
start time	end time	発言者	会話の内容
	43秒	樋口	先週、あの一、前回の時に *** で、あの一、教務からもいろいろ、あの一、お申し出いただいて、あの一、担当の開講の曜日等々変更したりとか、いろんなことをやっております。 皆さん、これで *** あの一、都合がよくないとか、あるいは、あの一、開講していただきたいとかいろいろ要望がございましたら、できるだけ早くカリキュラム委員会または教務課のほうに言っていたら結構ですけれどもお出しただいて、それであの一対応させていただきたい、個別にあの一、対応させていただこうと思います。以上です。
	1分50秒	吉井	すみません、あの一、カリキュラム委員会で昨年の12月16日に、え一、カリキュラム委員長から300名という枠組みと私の担当科目のことについてクラス ***、え一、されましたけれども、一応お手元に、え一、説明資料を配っておりますけれども、これはあの一、え一、教務の方に過去のコンピュータに入っているデータをくださいということで、え一、求めたものです。で、それでやりますと、あの一、私がその時説明しましたように、あの一、一番多い時で800名確か超えていたと思うんですね、んで、できるだけ、その一、少人数で、え一、やるというそういうコマも作ってみたいということで、あの一、専門必須のコースもある訳ですから、そういうようなことで、え一、土曜日に1つは分けることが望ましかろうということまで分けていたという話はしましたが、んで、これについてですね、え一、こういうふうな状況でもし平日であれば、あの一、300名はまず超えているだろうと思います。んで、それ、ま、いいんですよ。
	2分11秒	吉井	あの一、決定されたことに対してどうのこうのということをおっしゃっているのではなくて、で、それですね、あの一、四方さん(教務部長)に言わせるとそういうふうな基準はないというふうにおっしゃるのですが、んで、私も教務委員やってた時もなかった。んで、新たにお作りになったような雰囲気なんですけれども、その趣旨は一体何だろうかということをもう一度お聞きしておきたいというふう思うんですね。
	2分36秒	吉井	んで、それともう一つ、その一、え一、なんちゅうんですかね、あの一、コースによっては必須科目なんですよ、んで、その必須科目で、え一、やっぱり最低望ましいのはやっぱり100名ぐらいというのがいいんだろうと思います。思いますけれども、え一、それでは *** のかみあいもあると思うんです。ですから、我々が無理しなくてはならないところは無理しようというふうな気持ちで、え一、やってる訳ですけども、
	3分7秒	吉井	え一、そういうふうな、な時に、何故、もう一つ失望を感じるの、え一、その一、コース別の、その、カリキュラム委員会といったようなものを開かずね、え一、即決されたのか、それからもう一つは、え一、私の質問に対して二宮学部長はですね、え一、いわゆるサービスの低下といったような観点からみた時にというと、その、学部長要請という言葉をはっきりとおっしゃいましたですね、ですから、その辺の理由をまず、え一、1、2、*** をご説明いただきたい。
	3分54秒	吉井	最後にですね、え一、私がスウェーデンにいる時に、え一、樋口さんとえ一、前におられる北村学部長ですね、え一、がですね、2部の担当科目、同じ時間であるにもかかわらず、え一、担当不開講であり、そして ***。こういうことをされましたですね。んで、え一、その時に、その一、お掃りになったならば、3.5コマになって基準を満たさないよ、というふうな文書が来たと思うんですが、え一、4コマを割るということが起こった時に、あなたがたは何を意図しておられるのか、そういうふうなことをまずお聞きしたいなというふうに思いますので、その ** あなたがたのポリシーというんですか、もう少し、あの一、明確に説明していただければ、私は私なりに対応していきたいと思しますので、え一、是非、その、わかりやすくご説明ください。以上です。
	4分9秒	北村	おっしゃっているところがわかりませんが、私があの段階で3.5コマになるとか2部の科目を担当されなければ4コマ割りますよというのは就業規則上4コマとあるから、だから、旧科目でご担当くださいと申し上げたんでしょ。違いますか？
		吉井	私は記憶にありませんが、
		北村	いやいや、記憶にありません ***
		吉井	あの一、記憶にありませんがというよりも、あの一、事実そういうふうになるという状況が、あなたがたはわかっている訳だから
	4分23秒	北村	だから、だから、3.5コマになると困るので旧科目名でご担当くださいということでご担当されていたんでしょ。
		吉井	あの一、結果はそうでしょうけども、何故、そういうふうな状況をですね、自明のやつを、え一、おやりになるんですか？ 私はその時には開講する意思がありということと申し述べていたはずなんです。ですから、その件は
		北村	*** 答えたの、はい、就業規則上4コマ必要だと書いてあるからです。
		吉井	じゃ、就業規則上ということと結構です。んで、今回そういうふうなことをやっていると、4.5コマになる訳ですね。ですから、それが例えば *** になっていく訳ですね。
		北村	それは私が質問する気はないの
	4分51秒	吉井	バカヤロー

		北村	ふ ** な発言
		吉井	あの一、発言は ***
		二宮	*** バカヤローと言われる点は
5分10秒		吉井	記録にやったら記録に残しておいてください。結構ですよ。 あの一、そういうことで、あの一、学部長と副学部長、あの一、それぞれの項目についてご説明いただけませんか？
		二宮	ま一、え一と来週になったら
5分22秒		吉井	いやいや、あの、来週じゃなくて、今、あの、お答えくださいよ。
		樋口	整理せな
		吉井	いや、私、今説明したんだから、それでわかるでしょうが。
		樋口	いやいやいや、あの、スウェーデンなんかの昔の ***
		吉井	スウェーデン、そのことはもういいですからお答えくださいよ
		二宮	いろんなものをひっくるめてゴチャゴチャと出して書いておられますんでね
		樋口	***<聞き取り不可> *** 先生がそう思われるのはそらご勝手ですけどね、私は2コマやるから2コマ、それで ***
		吉井	いや
		樋口	この社会はぜんす**
		吉井	私は2コマやりたいからやっているのではないですよ。やはり専門教育であり、必須コース(※ 科目が正しい)であるならば、そういうそのサービスの低下にならないように、ね、充実させてやっていこうということで一生懸命やっている訳でしょう。
6分5秒	6分15秒	吉井	本田さんはこの前説明した時に、何も、あの一、質問した時にお答えにならなかったけれど、あなたの、え、教務委員長としての立場はどういうふうにお *** なんですか？
		本田	いや、今の問題についてはね、
		吉井	うん
6分17秒	6分24秒	本田	あの一、樋口先生もね、吉井先生もね、同じコースなんですよ。あの一、今、ビジネスネットワークコースですね、
		吉井	あ、それでね、私が言いたいのは、
		本田	いやいや、だから、
		吉井	議論する前に
6分28秒	6分41秒	本田	いきなりね、あの、教授会に諮るん違ってね、その、コース別のね、カリキュラム委員会なりね、あるいはカリキュラム委員会あるんですけどね、学部のね、そこで、あの一、十分検討してもらってね、あの一、かけるとかね、そうだといいんですけどね。
		吉井	いや、私もそれが常識だと、その場合思ったんですよ。思ったにもかかわらず、サーと出てきてやられたわけでしょう。ですから、私はこういう問題が起こったらいけないから実は教務委員長であるあなたにふった訳だわ。あなたがアグリーしているような感じがしたから、あの一、しかたがないなと思って
		本田	いや、私は前回は、あの一、500人以上の負担の対応についてあの一、言ったんですけどね。 今現在の教務の対応についてね
		本田	500人以上の受講生の場合ですね
		吉井	ま、それはいいんだわ、あの一、これは300名ということでおっしゃった訳でしょう。
	7分19秒	本田	ええ、いや、まだコースのあれとしてはですね、だから、今言ったように、あの、コースなりね、あるいは学部のカリキュラム委員会のほうでね、その一、検討してもらわないと
		吉井	あなたはそうおっしゃる。しかし、彼はその一、いわゆるカリキュラムのコース別なんて開いていないでしょ。それで、え一、*** していられる訳なんでね、そこが、私は
		本田	だから、
		吉井	合意を形成するには非常に問題があるということだね、
		本田	*** 検討してもらって、
7分40秒		吉井	そういう意見が委員長から出てますけども、あなたは
	8分3秒	樋口	私は500名を守りますから500名を超えてない限りはもうこれでお止めいただいたほうがよいと思います。 もう結構です。はい、全体の基準の問題ですから、あの一、私だけは2コマやるというそんな話はとにかく困ります。 ほんなら、あの一、別に学科、学科のコースの * の話ではありません。学部全体の話です。
			受講者数の多い科目について、教務委員会の分割基準の目安、500名の受講生を超える場合分割する基準を逆手にとり、樋口カリキュラム委員長は経営学部独自の統合基準、300名を割る2コマ開講科目を1コマにする基準を新たに設け、コマ減らしに使ったというのが、樋口カリキュラム委員長をはじめとする学部執行部の意図であることが理解される。
		吉井	300ではなくて500だったのか？ 今の *
		？	500です、500です。ただし、私たちの情報としては500は多すぎるということも

8分12秒	吉井	ちょっと待って、あのー、500は今、我々、私が教務委員長、教務委員であなたに引き継いだ時には、その、人数が非常に多い時にはね、えー、それを分割しようという話でやってきたと思うんです。それはハッキリと、あのー、継承されておりますけれども、今回のやつは、逆に言うと専門教育であれば、できるだけね、少人数でやろうという気持ちで我々はやってきたじゃないですか。んで、その少人数でやろうということで、皆さんが教えられても、私は300から500名の学生を集中して教えようと思うもの凄くエネルギーがいる。んで、それでなんとか、その、そのー、アプローチを変えたいということですね、それで、えー、100名と同じような感じで、えー、いわゆる、土曜日のほうに振ってですね、そのー、別の、同じような内容でいつもはやってない訳ですよ。そういうふうなことで学生に自分の趣旨を訴えたいということやってきている訳ですね。
8分58秒	吉井	そういうふうな、えー、アプローチをしていることに対して、今、樋口さんは一律どうのこうのおっしゃるその前提の前に、いわゆる、教育とはとか、専門教育を我々はどういうふうに教えたいのか、とかね、そういうふうな議論があって然るべきではないんでしょうか？ 私はそこをしっかりとね、コースとは別に、そのー、いろんなコースあるでしょうけど、あの、専門のご担当の先生がたはそういうことをしっかりと議論して、そして、それを *** にもっていくべきではないでしょうか。えー、結論は、自分のことを特別扱いしてほしいと言って言っている訳ではないんですよ。あのー、そういうふうに進められるならそれに従いますということ私は言っているし、あのー、元に戻してくれということ言っている訳ではないんです。そういうふうなことを議論して我々は学生に対してどういうふうに進めようとしているのかということね、その具体が、具体化がカリキュラムのそこに出てくる訳だから、そういう気持ちで私はこの文章を書いた訳ですけども、それに対して、今の、そのー、樋口さんのご意見から見たら、ちょっと、あのー、問題を感じるんですが。んで、あのー、二宮さんはその時に、学部長要請であるということ強くおっしゃったけれども、あのー、学部長要請とは一体何ですか？
10分22秒	二宮	それは一、カリキュラム委員会で、え、そういう方針が出て、えー、そうですね、ま、*** 限定としてやっていく場合は、私らの、その責任をもってやっていく訳ですからその意味ではわかると思います。そういう意味で言っただけです。
11分3秒	伊藤	*** の時はわかるんですけども、まだ、その、記憶するところによると、この学部の授業のなかにおいてもなんらかの事情があって人数の制限しているということは *** していると思うんです。そしたら、それとこれが前提になるかどうかはもうひとつ考えることにするんだけど、普通に人数がどうこうという問題ではないと思うんです。そこら辺をもう一回コースでキチッと話を、その意をことこまかにその人数というところをコースの中で議論してください。
11分10秒	樋口	コースの問題ではないですよ。学部全体の問題、いってみたら、学部の問題だけじゃないですよ。
11分52秒	吉井	あの、コース全体の問題とおっしゃいながら、カリ、あの、ごめんなさい、教務委員長のほうは、その、コース別のカリキュラム委員会でよく議論すべきだと、つまり、えー、コース別にどういうふうな学生の、その、付加価値をつける取り組みかという、そういうストーリーのもとでカリキュラム、え、いわゆる、えー、科目とか、それを決めていく訳だから。僕はやはり、あのー、教務委員長のおっしゃるようですね、そのー、コース別のところでよく議論をして、そしてそれを全体のカリキュラム委員会にあげるべきだろうというのが、僕の、あのー、通常の方です。ですから、そこから見た時に、そのー、あなたがたのやり方は非常にあのー、偏している、好ましくないやり方を私はしておるように思うのです。
	樋口	すみません。あなたがたというのは誰のことですか？
	吉井	あなたがたというのは、樋口さんとか二宮さん達ですね。
11分58秒	樋口	達というのは
	吉井	ああ、違いうたら、こ、この前におられる北村さんも、ま、あのー、
	北村	私がどうして ***
	吉井	あのー、過去の経験から見たら、
	北村	経験で言わないでください。この問題、私がどれくらい関与しましたか？
	吉井	わ、私はわかりませんけれども
	北村	わからないで
	吉井	いや、わからないでというよりも、あなたは執行部として、元執行部としてそういうふうなことをやってきたやないですか
	北村	*** 私、かかわっているのですか？ そんなことは常識でしょう。教授だったら。この間の提案に私がどれくらい関与しているというんですか？
	吉井	この間の提案で何ですか？
	北村	い、いや、クラスを1つにするという提案でしょう。そのことを今議論してんでしょ。
	吉井	私は今それ
	北村	*** 消しなさい
12分39秒	吉井	私は消すつもりはありません。記録に残しておいてください。
	北村	はっはっは、まだまだ ***
	吉井	ですから、私は、あのね、個別の議論じゃなくて
	北村	発言やめます。
	吉井	あのー、発言しなくて結構です。あのー、私が言っている
12分47秒	北村	進行してください。
	吉井	ちょっと待ってください。そのー、その趣旨について議論してほしいということ言っている訳ですよ。
	北村	私は関与していません。この問題に、

12分54秒		二宮	あの一、えーとね、ま、一時、あの一、なんか経営懇談会とかいうような形で、ま、あの一、げんばだい(?)について、あの一、話しましたところ、やったりするのを。ただ、あの一、その後ここんとこやってない。事実ですかね。 ま、あの一、そういうところで、えーとですね、ま、吉井さんの言われた問題提起からは、ま、まさに、そういうことを前提にして、えー、前提するいうか、ま、議論しながらやってきている。その場合どうなるか。だから、おそらく吉井さんが途中で、あの一、バリューエンジニアリングとかな、えー、*** 科目を設定されたのも、あんまり議論はなかったんですけども、ご自身はそんな、あの一、わけあったんですか？ ま、いろいろ科目の設定については持論はいろいろありますけどね。
13分46秒		二宮	ま、あの、確かににめんとしては、だから、これからは、ま、そういう機会を設けるように努力をしたいと思います。これ一、
13分55秒		北村	学部長、あのね、
		二宮	はい
13分57秒		北村	これから設けるちゅうんじゃなくて、この前のね、あの一、ふじし、藤澤さんのご担当科目をね、担当問題を介しながらね、あの一、各科目についてね、もう一度ね、みなおすというね、カリキュラム委員会、委員会がみなおす、総合的に見直すということになってるでしょう。 その後、一貫として受講者数問題もやったらよしいがな。 他の科目の問題もたいきやくして、んで、各コースに当然はたらくちゅうそういう問題がなければね、
14分21秒		吉井	あの一、私は素直な気持ちで自分が受けている感情からみたならば、えー、いわゆる、一種の圧力というふうに感じてるんです。 ですから、そういうふうに感じさせるようなやり方というのは好ましくないというふうに思いますので、
		二宮	それは勝手に感じてるんでしょ
		吉井	ん、だから勝手に感じるのはいるんですが、一種のパワーハラスメントであるというふうに感じますが
		二宮	私なんかを含めて *** 偏見を持っているから何を言うても、そ、そういうふうに思われるんですよ。 カリキュラムにつきましては、はい、あの一、えっと、また次回こられるものがあればそれだけ答えますが
14分59秒		吉井	じゃ、質問に答えなくて結構ですよ。そういうふうには私は受け取っておきます。